

『「食」を通じてローコスト・ハイクオリティ社会の実現を目指すプロフェッショナル人材の育成』 ～佐用風土(Sayo Food)を活用したモデルプランの構築～

【研究開発の背景】

佐用町の強みと弱みを課題設定の主軸に捉え、佐用高校家政科での学びにリンクさせた上で、協働事業を考察することでカリキュラム開発に繋げる。その中で生徒のさらなる能力向上と地域への貢献を同時に展開することを目標とする。

佐用町の強み

- 「播磨国風土紀」が記す歴史と伝統
- 肥沃な土壌
- 兵庫・岡山・鳥取を結ぶHUB TOWN

佐用町の弱み

- 老年人口率40%（全国平均の1.5倍）
- 急激な人口減少（5年間で半減）
- 大規模河川災害

「食」に通じた、佐用を支えるプロフェッショナル人材の育成

- 佐用高校課題解決3施策
- 「佐用風土(Sayo Food)」商品開発
 - 「高校生訪問サービス」実施
 - 「保存食・非常食」開発

- 佐用町課題解決3方針
- 佐用の特産品を活用（商品開発・マーケティング）
 - 佐用で暮らす人を守る（健康寿命延伸）
 - 佐用の水害から学ぶ（安全安心な町づくり・災害レジリエンス）

【実施体制】

商品開発

佐用町×企業×佐用高校による商品開発会議を月に1回開催、商品化

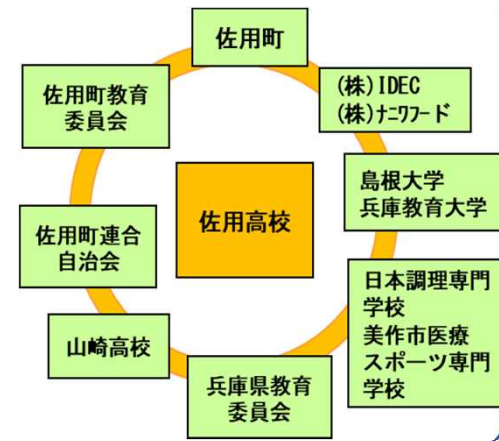
健康寿命

佐用町社会福祉協議会×佐用高校によるボランティア活動の実施

佐用町教育委員会×佐用高校による食育活動

防災学習

佐用町企画防災課×佐用高校による防災学習



【令和4年度の目標】

- 学びのスパイラルの中で課題発見・解決力やコミュニケーション能力など9つの力を向上させる。
- 各三本柱においてフィールドワークでの学びを実施し、地域協働のシステムを確立させる。
- 最終年度として、本事業の成果を地域に還元するとともに、自走できる体制を構築する。

【取組状況】

協働先

佐用の特産品を活用
(商品開発・食育活動・
開発商品の広報・販売活動)

佐用で暮らす人を守る
(高齢者食生活調査・
食改善レシピ開発)

佐用の水害から学ぶ
(災害時保存食開発・
避難時支援者育成)

- ・佐用町 企画防災課 保健福祉課 社会福祉協議会
- ・IDEC
- ・ナニワフード
- ・佐用消防署
- ・瓜生原亭
- ・佐用保育園
- ・利神保育園
- ・子育て支援センター
- ・佐用小学校
- ・美作市スポーツ医療看護専門学校



開発商品の即売会



高校生訪問サービス



防災訓練企画会議



高校生レストラン2022



給食サービス



佐用合同防災訓練

【成果】

商品開発

- 「佐用もち大豆と夢茜トマトスープ」の開発
- 「SOY STICK（佐用もち大豆バー）」の開発
- 特産品を使用した「食改善レシピ本」を地域に還元

健康寿命

- 専門学校での研修により福祉に関する専門知識と技術の習得
- 乳幼児から高齢者まで幅広い年代に対しての「食育」活動
- 地域高齢者に対する健康寿命延伸に向けた活動

防災教育

- 「佐用町合同防災訓練～KIZUNA大作戦～」を企画運営
- 小学校「防災出前授業」の実施と災害備蓄食の開発
- 「ぼうさい甲子園」での入賞と防災Jr.活動の実施

その他

- 地域との協働による体験活動の中で生徒の主体性が育まれ、資格取得や学力向上意識の高まりがみられた一例
- 「全国プレゼン甲子園」決勝大会進出（10組/441組）
- 「エコレシピ博覧会」ポスターセッション準優勝
- 各種コンクールでの入賞と検定、資格取得率の向上

【課題】

- コロナ禍における地域との協働活動
- 従来の事業の見直しと自走に向けたシステム構築
- 継続した「指導と評価化の一体化」